

# 110周年事業（比較文化学部）

## ニュースレター 第4号

### 日独協会による講演会を開催

6月20日（水）、公益財団法人日独協会の柚岡一明常務理事を「ヨーロッパ研究入門 EI（ドイツ文学と芸術）」の授業にお招きし、講演をしていただきました。



柚岡様による講演の様子

「多様性社会、知ってるつもりドイツと日本」と題した講演では、まず、ドイツの歴史を中世、近世、現代とたどりましました。その過程で、ドイツ語といっても地域差（方言）があること、ドイツが多様な州で構成されていることなどが紹介され、ドイツが多様な社会であることが示唆されました。また、戦後のドイツが EU（European Union：欧州連合）の発展とともに生きてきた、ヨーロッパの一員（EUのなかのドイツ）として生きてきた、とも伝えられました。

つづいて、移民、難民についてのお話がありました。戦後長きにわたって移民や難民を受け入れてきた実績、そしてドイツの憲法（基本法）で定められている庇護権についてのお話は、ドイツが近年の難民問題に対して積

極的に取り組んだ理由をうかがわせるものでした。難民認定や支援の様子、移民あるいは移民の背景をもつ人の割合が増えているという人口構成の紹介を通じて、ドイツの多文化社会、多様性社会の様子が伝えられました。そして、そんな多様性社会で意思疎通をするポイントについて、ドイツ滞在経験の長い柚岡様からアドバイスがありました。

さらに、最近日本でも聞かれるようになった「働き方改革」についてのお話がありました。労働時間、有給休暇取得率、仕事の裁量、マネジメントなどにおける日本とドイツの比較を通じて、しくみというより企業や働き手の意識に違いがあるのではないかと話をしていただきました。さいごにドイツの日本デーを題材にして、日独交流についてのお話がありました。



講演の様子

講演後は、コタカフェに移動してコーヒータイムを開催しました。柚岡様、教員、有志の学生とのあいだで、

ドイツのこと、ドイツと日本の関係、多文化社会におけるコミュニケーションのありかたなどについて懇談しました。



コーヒータイムの様子



コーヒータイム終了時の集合写真

今回の講演には、ドイツ語を選択している学生、ヨーロッパ文化コースに所属している学生のうちドイツ研究に関心をもつ学生などが参加しました。ドイツの滞在経験が豊富で学生のドイツ派遣にも携わったことがある柚岡様のお話は、ドイツについてさらに学びたい、ドイツに実際に行ってみたいと思わせる、とても興味深いものでした。参加した学生のみなさん、運営を支援してくだ

さった学生スタッフのみなさん、コタカフェのみなさんをはじめ、ご支援をいただいた関係者のみなさまには感謝を申し上げます。

## 告知

いよいよ今週末の7月14日(土)には、シンポジウム「女子大学の可能性と未来への展望を拓く」が開催されます。次第は以下のとおりです。

参加登録の必要はありませんので、当日直接会場にお越し下さい。たくさんのご参加をお待ちしております。

日時： 7月14日(土) 14:00-17:00 (開場 13:30)

場所： 千代田キャンパス大学校舎 H 棟 113 教室

入場無料

問い合わせ先： 2018hikakusymposium@gmail.com

### <プログラム>

#### 基調報告

伊藤正直学長 (大妻女子大学)

「女子高等教育とジェンダー」

高橋裕子学長 (津田塾大学)

「21世紀における女子大学のコア・バリューズ  
～セブンシスターズにおける二つの「共学」論争を通して考える～」

#### コメンテーター

宇沢美子教授 (慶應義塾大学文学部)

赤松美和子准教授 (大妻女子大学比較文化学部)

#### 司会・進行

石川照子 (大妻女子大学比較文化学部教授)

北原零未 (大妻女子大学非常勤講師)

110周年事業 (比較文化学部)

ニューズレター 第4号

発行日：2018年7月11日

発行者： 井上 淳